

令和5年度末自己評価書

愛南町立柏小学校

| 重点目標 | 評価項目 | 評価指標・目標値 | 評定 | 考察(◇)及び改善方策(◆) | | 4 | 3 | 2 | 1 | 肯定率 | 個別評価 | |
|--------------------|---|---|--|--|------|----|-----|----|-----|-----|------|--|
| 学びづくり(確かな学力の定着と向上) | 1 基礎的・基本的な学力の定着 | 指標① 学校は、個の教育的ニーズに応じた指導・支援を行い、個別最適な学びの充実に努めているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定> | A | ◇ 児童・保護者・教職員共に肯定率が概ね90%を上回り、目標は達成した。児童の「先生が丁寧に教えてくれるか」の肯定率が少し下がり、「授業がよく分かるか」の問いでも「2」と回答した児童がいるため、「分かる・できる」ためのきめ細かな指導を工夫していく。教職員の評価については、読解力向上のための指導改善はできたが、基礎的・基本的な内容の定着や個に応じた課題設定、自主学習については課題点が挙げられている。 ◇ 読解力・思考力・表現力については、正確に読み取ったり、自分の考えを書き伝え合ったりする授業の改善により、向上が見られた。 ◆ 基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指し、学習規律等について教職員間で共通理解して指導を徹底する必要がある。さらに、教師の問い掛けや対話の工夫、語彙を豊かにする活動を通して定着を図るとともに、粘り強く課題をやり遂げる自己学習力を育てていく。 ◆ 全国学力・学習状況調査、単元末テスト等から学級や個々の実態を客観的に把握し、学力向上を目指した個別最適な学びを工夫する。 | 児童① | 61 | 34 | 5 | 0 | 95 | A | |
| | | | | | 統一 | | | | | | 36人 | |
| | | | | | 児童⑦ | 69 | 18 | 13 | 0 | 87 | B | |
| | | | | | 保護者① | 58 | 37 | 5 | 0 | 95 | A | |
| | | | | | 教職員① | 50 | 50 | 0 | 0 | 100 | A | |
| | | | | | 教職員② | 44 | 56 | 0 | 0 | 100 | A | |
| | 2 学習習慣の確立 | 指標② 学校は、児童に家庭学習の習慣が身に付くよう家庭学習を工夫し、自己学習力の育成に努めているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定> | B | ◇ 家庭学習に関する児童の肯定率は高いが、保護者の肯定率は低く、中間期より更に下がっている。(72%→55%)学年に応じた家庭学習の習慣を身に付けさせることが課題である。 ◆ 「家庭学習の手引き」「自主学習の手引き」「家庭学習調べ」等での振り返りを活用して、保護者と連携し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ◆ 授業と関連した学年に応じた量と質の宿題を出し、間違いをきちんと直すことで、粘り強くやり抜く児童を育てる。 | 児童⑧ | 58 | 34 | 8 | 0 | 92 | A | |
| | | | | | 統一 | | | | | 35人 | | |
| | | | | | 保護者③ | 8 | 47 | 34 | 11 | 55 | C | |
| | | | | | 教職員⑤ | 0 | 100 | 0 | 0 | 100 | A | |
| | 3 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善 | 指標③ 教師は、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を目指して指導方法を工夫し、児童が「分かる・考える・伸びる」授業づくりをしているか。 <目標値 児童・教職員の90%以上が肯定> | A | ◇ 児童・教職員共に肯定率は、概ね90%を上回っている。主体的・対話的な授業を目指した読解力や表現力を伸ばす授業改善をし、成果が見られたため、教職員の肯定率が向上した。しかし、「考え議論する道徳」への取組については、課題が残っている。 ◆ 今後も教師が良きファシリテーターとなり、問い掛けや問い返しなどの工夫をしながら、協働的な学びを充実させるとともに、道徳科においても、児童の主体性や協働的な学びを生かした授業展開を工夫していく。 | 児童② | 39 | 53 | 8 | 0 | 92 | A | |
| | | | | | 児童③ | 58 | 39 | 3 | 0 | 97 | A | |
| | | | | | 教職員② | 43 | 57 | 0 | 0 | 100 | A | |
| | | | | | 教職員④ | 14 | 72 | 14 | 0 | 86 | B | |
| | 4 情報活用能力の育成 | 指標④ 児童や教師がクロームブックを積極的・効果的に活用し、よさや楽しさを実感しているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定> | A | ◇ 90%以上の児童が、クロームブック等を使った学習を「楽しい・分かりやすい」と回答し、保護者・教職員の肯定率も好結果である。しかし、クロームブックの活用方法については個人差があり、タイピング以外にもニュースや関心のあることを調べる等、効果的な活用法を指導し、自己学習力につなげる工夫が必要である。 ◆ クロームブックのミライシード等のアプリを効果的に活用して学習する。また、書く力の育成も重要であり、デジタルとアナログの活用場面を効果的に選択しながら、授業の充実を図る。 ◆ クロームブックを授業で1日1回以上活用するとともに、課題を早く終えた児童が、自主学習として効果的に活用できるよう指導する。 | 児童④ | 79 | 18 | 3 | 0 | 97 | A | |
| | | | | | 統一 | | | | | 37人 | | |
| 児童⑤ | | | | | 68 | 26 | 3 | 3 | 94 | A | | |
| 児童⑥ | | | | | 53 | 47 | 0 | 0 | 100 | A | | |
| 保護者② | | | | | 42 | 45 | 13 | 0 | 87 | B | | |
| 教職員③ | | | | | 57 | 43 | 0 | 0 | 100 | A | | |
| 5 読書活動の推進 | 指標⑤ 進んで読書に親しむ児童が育っているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定> | B | ◇ 全校での朝読書や1日30分読書、地域の方による読み聞かせ、図書委員会による読書集会や多読賞等の活動により、読書意欲が向上し、本に親しむ児童は確実に増えた。しかし、自分に厳しく評価したのか肯定率は中間期より下がった児童もいる。保護者の評価は低い状態を維持しているが、中間期より少し向上している。 ◆ 「図書だより」を発行し、1日30分読書、エイリス(EILS)のみきゅん通帳の活用、お気に入りの文章やおすすめの本の紹介等、児童の頑張りを保護者と共有する工夫をする。 | 児童⑨ | 50 | 34 | 13 | 3 | 84 | B | | |
| | | | | 保護者④ | 21 | 40 | 39 | 0 | 61 | C | | |
| | | | | 教職員⑥ | 43 | 43 | 14 | 0 | 86 | B | | |

| | | | | | | | | | | | |
|------------------------|--------------------------|--|---|--|------|----|----|----|---|-----|---|
| 心づくり (生徒指導の徹底と健全育成) | 6 主体性、礼儀と感謝の心の育成 | 指標⑥ 児童が自ら「気付き・考え・実行する」とともに、きまりを守り、礼儀や感謝の心が育っているか。 <目標値 児童・保護者・地域・教職員の90%以上が肯定> | A | ◇ 挨拶や感謝の心については、中間期・年度末とも児童・地域・教職員の肯定率が90%を上回ったが、保護者の評価は90%を下回っており、家庭での挨拶は十分でない面が見られる。防災学習をはじめ様々な行事の中で「気付き・考え・行動する」児童の育成を目指し、継続して指導した。避難訓練で自ら判断し、周りに声掛けをする等、率先してよりよい行動をしようとする児童の姿が見られるようになった。 ◇ 学校の決まりを守ることは、児童の肯定率が低かったが、規範意識の向上を図る指導を継続し、児童の自己評価が向上した。 ◆ 今後も、挨拶や感謝の言葉の大切さが、心に響き行動につながるよう、道徳科や学校生活全般を通して指導を継続する。目上の人への接し方、言葉遣い等、礼儀についても場に応じて指導する。また、児童の良さを保護者に積極的に伝えていく。 | 児童⑫ | 71 | 24 | 5 | 0 | 95 | A |
| | | | | | 児童⑬ | 71 | 24 | 5 | 0 | 95 | A |
| | | | | | 児童⑰ | 61 | 34 | 5 | 0 | 95 | A |
| | | | | | 保護者⑦ | 34 | 53 | 10 | 3 | 87 | B |
| | | | | | 地域① | 55 | 45 | 0 | 0 | 100 | A |
| | | | | | 教職員⑧ | 18 | 82 | 0 | 0 | 100 | A |
| | | | | | 教職員⑦ | 27 | 73 | 0 | 0 | 100 | A |
| | 7 いじめや差別のない認め合い支え合う集団づくり | 指標⑦ 「柏小学校いじめ防止基本方針」を基に、児童が主体的に「柏っ子のきまり5か条」を守り、いじめや差別を許さない心、認め合い支え合う温かい集団が育っているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定> | A | ◇ 中間期は、児童・保護者の肯定率が90%を下回っていたが、児童の「友達の気持ちを考え仲良くする」という自己評価が向上した。教職員の肯定率は100%で、「柏っ子のきまり5か条」の意識付け、学校生活アンケートや教育相談の実施等、児童の心に寄り添う支援に努めることができた結果と考える。 ◆ 今後も児童の悩みや相談に親身に対応し、連携して教育相談や指導に当たる。保護者と情報を共有し、協力しながら相互理解を深め、対応する。 ◆ 丁寧な言葉遣い、相手を思いやる優しい言動を増やすとともに、人の心や体を傷付ける言動については、毅然とした態度で指導する。また、違いを認め合う温かい風土を醸成する。 | 児童⑭ | 55 | 37 | 8 | 0 | 92 | A |
| | | | | | 保護者⑩ | 16 | 68 | 11 | 5 | 84 | B |
| | | | | | 教職員⑪ | 60 | 40 | 0 | 0 | 100 | A |
| | | | | | 教職員⑫ | 40 | 60 | 0 | 0 | 100 | A |
| | | | | | 児童⑩ | 68 | 21 | 11 | 0 | 89 | B |
| | 8 自己肯定感・自己有用感の育成 | 指標⑧ 児童は、友達や教師と積極的に関わりながら、楽しく学校生活を送ることができているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定> | A | ◇ 児童一人一人と向き合い、信頼関係確立に努めた結果、「学校は楽しい」と回答する児童は中間期より増え、保護者の肯定率は90%を上回った。「あまり楽しくない」と答える児童はいるものの、「楽しくない」は0となった。授業や行事等で活躍の場が多く、充実した学校生活を送ることができた結果ではないか。 ◆ 児童が、主体的に計画する学級活動や集会、ふれあいタイム等での交流を充実させ、一人一人が大切にされ、笑顔で生き生きと活躍できる場の設定に努める。 | 統一 | | | | | 34人 | |
| | | | | | 保護者⑤ | 68 | 26 | 3 | 3 | 94 | A |
| | | | | | 統一 | | | | | 35人 | |
| | | 指標⑨ 児童は、自分によいところがあると自信を持っているか。 <目標値 児童の90%以上が肯定> | B | ◇ 教職員は、児童の頑張りや良さを認め励ます支援に努めているが、児童の自己肯定感・自己有用感に関する肯定率は、中間期・年度末ともに90%を下回った。年度末はさらに下がっているため、早急な手立ての工夫・改善が必要である。 ◆ 児童の良いところを教職員が積極的にほめ、児童同士も互いに認め合えるよう、学級・学校の風土づくりに努める。 | 児童⑱ | 40 | 39 | 21 | 0 | 79 | C |
| | | | | | 教職員⑭ | 46 | 54 | 0 | 0 | 100 | A |
| | | 指標⑩ 児童は、あきらめずに物事に挑戦しているか。 <目標値 児童・教職員の90%以上が肯定> | A | ◇ 児童・教職員の肯定率は、90%を上回っているが、保護者は、中間期・年度末ともに80%を下回る低い評価である。児童が目標を持って頑張っていることが、保護者に伝わっていない可能性があると考えられる。 ◆ 児童に自分の目標を意識させ、学校や家庭で確認することで、児童の目標を保護者と共有する。また、児童の頑張っている姿をホームページや学校だより、学級通信等で積極的に紹介したり、懇談会等で児童の良さを積極的に伝えたりする。 | 児童⑰ | 68 | 29 | 3 | 0 | 97 | A |
| | | | | | 保護者⑧ | 18 | 58 | 24 | 0 | 76 | C |
| | | | | | 教職員⑩ | 50 | 50 | 0 | 0 | 100 | A |

| | | | | | | | | | | | |
|-----------|---------------|--|----|---|------|----|----|----|----|-----|---|
| 体づくり | 9 基本的な生活習慣の確立 | 指標⑪ 規則正しい生活をする児童が育っているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定> | A | ◇ 「早寝・早起き・朝ごはん」が習慣化しているという児童・保護者の肯定率は、中間期は90%を下回っていたが、年度末は児童の自己評価が向上した。保護者の肯定率は依然低く、規則正しい生活ができていない児童が少数ではあるが存在している。 ◆ 規則正しい生活をするための大切さについて、ゲームやSNSの指導と重ね、保健指導や学級活動の中で具体的な指導を継続する。また、家庭と連携し、指導したことが定着しているかを確認する。 | 児童⑪ | 66 | 26 | 7 | 0 | 92 | A |
| | 10 体力づくりの推進 | 指標⑫ 学校は、児童の体力向上のための取組を積極的に行っているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定> | B | ◇ 児童の肯定率と保護者の肯定率は、中間期を下回っている。体育科や「いきいきタイム」で運動に親しんだり、放課後の水泳・陸上練習を行ったりして、体力向上を図ったが、進んで運動する児童は減っている。運動に親しませる工夫が必要である。 ◆ ITスタジアムでボール運動や縄跳びに取り組み、数値を用いた目標・到達度を示して意欲を高めていく。これらの取組をホームページや通信等を通して積極的に伝える。 | 統一 | | | | | 34人 | |
| 特色ある学校づくり | 11 安全・防災教育の充実 | 指標⑬ 学校は、安全（防災）教育を教育課程に位置付け、家庭や地域・関係機関等と連携して「命を守る教育」を推進しているか。 <目標値 児童・保護者・教職員の90%以上が肯定> | A | ◇ 防災学習や避難訓練を通して、「自分の命は自分で守る」ことや、「自助・互助・共助」への意識が高まり、児童・保護者・教職員共に肯定率が90%を上回り、目標を達成できた。防災アドバイザーや外部講師による学習会、フィールドワークや高速道路建設現場見学、意見交流会等の体験を通して、貴重な学びができた。また、防災マップ作りを通して学んだ成果を学習発表会で保護者や地域に発信するなど、啓発にも努めた。 ◆ 防災学習の学びを日常生活や他教科の学習に生かすとともに、予告なし避難訓練等を通して、緊急時の更なる判断力の育成を図る。 | 保護者⑥ | 50 | 32 | 8 | 10 | 82 | B |
| | 12 ふるさと学習の推進 | 指標⑭ 学校は、地域人材や自然・文化を活用するなど、地域の教育力を生かした教育活動を推進しているか。 <目標値 児童・保護者・地域・教職員の90%以上が肯定> | A | ◇ 児童の肯定率はやや下がったが、保護者・地域・教員の肯定率は90%を上回る好結果である。地域交流会で地域の方に昔の遊び等を教わり、保護者と共に交流を深めたり、各教科や防災学習の学びを地域に発信したりして、地域の良さを実感できる取組を行ったことに対する評価と考える。 ◆ 地域コーディネーターが、地域と学校をつなぐ役目となって、生活科や総合的な学習の時間等で豊かな体験活動を行うことができた。今後も地域コーディネーターの積極的活用を通して、学校運営協議会や地域の方々の協力を得ながら交流を深める。 | 児童②① | 58 | 37 | 5 | 0 | 95 | A |
| | | | | | 保護者⑩ | 26 | 47 | 16 | 11 | 73 | C |
| | 13 開かれた学校づくり | 指標⑮ 学校は、各種通信やホームページ等で、学校の取組を発信したり、参観日等で積極的に公開したりしているか。 <目標値 保護者・地域・教職員の90%以上が肯定> | A | ◇ ホームページや通信等を通して、教育活動や児童の様子を積極的に伝えるよう努めたことにより、地域・教職員の肯定率は、90%を上回った。保護者の肯定率は中間期より少し下がったものの、概ね目標を達成できた。 ◆ 今後も、タイムリーな情報発信に努めるとともに、保護者・地域の方が来校しやすく相談しやすい学校づくりに努める。 | 保護者⑦ | 30 | 70 | 0 | 0 | 100 | A |
| | | | | | 児童②② | 55 | 34 | 8 | 3 | 89 | B |
| | | | | | 保護者⑬ | 32 | 58 | 10 | 0 | 90 | A |
| | | | | | 保護者⑭ | 41 | 56 | 3 | 0 | 97 | A |
| | | | | | 教職員⑲ | 60 | 40 | 0 | 0 | 100 | A |
| | | | | | 教職員⑳ | 60 | 40 | 0 | 0 | 100 | A |
| | 児童⑱ | 60 | 37 | 3 | 0 | 97 | A | | | | |
| 児童⑲ | 63 | 26 | 11 | 0 | 89 | B | | | | | |
| 保護者⑨ | 71 | 26 | 3 | 0 | 97 | A | | | | | |
| 地域② | 73 | 27 | 0 | 0 | 100 | A | | | | | |
| 教職員⑳ | 55 | 45 | 0 | 0 | 100 | A | | | | | |
| 教職員⑮ | 60 | 40 | 0 | 0 | 100 | A | | | | | |
| 保護者⑫ | 50 | 37 | 13 | 0 | 87 | B | | | | | |
| 地域③ | 82 | 18 | 0 | 0 | 100 | A | | | | | |
| 教職員⑰ | 25 | 75 | 0 | 0 | 100 | A | | | | | |
| 教職員⑳ | 90 | 10 | 0 | 0 | 100 | A | | | | | |
| 教職員⑳ | 55 | 45 | 0 | 0 | 100 | A | | | | | |
| 教職員㉑ | 70 | 30 | 0 | 0 | 100 | A | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|-------|-----------------|---|---|--|------|-----|----|---|-----|-----|---|
| 環境づくり | 14 きれいな学校づくり | 指標⑯ 学校は、校舎内外の美化や環境整備に努めているか。 <目標値 児童・地域・教職員の90%以上が肯定> | A | ◇ 教室環境や校舎内外の環境整備に努め、安全できれいな環境を維持することができた。児童も縦割り班の清掃活動に一生懸命取り組み、児童・地域の肯定率は、90%を上回っている。教職員の肯定率も中間期より向上し、90%を上回った。 ◆ 教職員が率先して模範を示すとともに、進んで校内外の美化活動やボランティアに取り組んだ児童を賞揚し、意欲を継続する。 | 児童⑮ | 63 | 32 | 5 | 0 | 95 | A |
| | | | | | 地域④ | 70 | 30 | 0 | 0 | 100 | A |
| | | | | | 教職員⑲ | 46 | 54 | 0 | 0 | 100 | A |
| | 15 安全管理の徹底 | 指標⑰ 学校は、教職員の危機意識を高め、児童の安全確保に努めているか。 <目標値 教職員の90%以上が肯定> | A | ◇ 月に一度、校舎内外の安全点検を行い、日常的に気付いた場所は、その都度修理することに努めていることから、肯定率100%を達成している。 ◆ 今後も、全教職員が危機意識を高く持ち、安全な環境づくりに努める。 | 教職員⑳ | 30 | 70 | 0 | 0 | 100 | A |
| | | | | | 教職員㉔ | 82 | 18 | 0 | 0 | 100 | A |
| | 16 教職員の資質・能力の向上 | 指標⑱ 教職員は自らの資質・能力の向上に努めているか。 <目標値 教職員の90%以上が肯定> | A | ◇ 校内研修会を中心に、様々な教育課題や児童の課題について話し合ったり、授業改善のための研究授業を行ったりすることができた。特に、2学期には、講師を招いての授業研究会を実施し、読解力を高める指導方法の改善を目指した取組を行うことができた。教職員の肯定率も好結果となった。 ◆ 今後も校内研修や自己研修に努め、児童への指導に生かす。 | 教職員㉕ | 50 | 50 | 0 | 0 | 100 | A |
| | | | | | 統一 | | | | | 12人 | |
| | | | | | 教職員㉗ | 64 | 36 | 0 | 0 | 100 | A |
| | | | | | 教職員㉘ | 100 | 0 | 0 | 0 | 100 | A |
| | 17 学校組織の活性化 | 指標⑲ 学校の運営体制を組織的・計画的に点検・評価・改善し、業務改善に努めているか。 <目標値 教職員の90%以上が肯定> | A | ◇ 教職員の肯定率は、90%を上回り目標を達成している。問題を一人で抱え込まないで、組織で対応するようにしていることが高い評価につながったと考えられる。時間外勤務については、今後も軽減に向けた対策が必要である。 ◆ 業務改善や協働体制、計画的な校務遂行に努める。時間対効果を考えた改善をすることで、時間外勤務の削減に向けた努力をする。 | 教職員㉙ | 40 | 60 | 0 | 0 | 100 | A |
| | | | | | 教職員㉚ | 25 | 75 | 0 | 0 | 100 | A |
| | | | | | 教職員㉜ | 73 | 27 | 0 | 0 | 100 | A |
| 教職員㉝ | | | | | 73 | 27 | 0 | 0 | 100 | A | |
| 教職員㉞ | | | | | 63 | 37 | 0 | 0 | 100 | A | |
| 教職員㉟ | 27 | 73 | 0 | 0 | 100 | A | | | | | |